

Whoops! 考

医療現場の壁画はみんなとの共同制作

野口医院（静岡県浜松市）

本誌前号に続き、病院内に施す「ホスピタルアート」のコンサルティングを手掛けるNPO法人「アーツプロジェクト」の仕事取材した。理事長の森合音さんが、数多くの制作実績の中で「院長が独自の感性を持っている」と語るのが、静岡県浜松市にある野口医院だ。現場を訪ねると作画を担当した馬場千愛さんも話に加わり、見るからに楽しい壁画がどんなプロセスを経てできたのかを聞くことができた。

© Tomoyasu Noguti



© Tomoyasu Noguti



空中をたゆたうピアノの鍵盤の上で猿が踊り、八分音符の上に乗ったうさぎがラッパを吹いている。見上げると天井には雲が浮かんだ空の絵があり、さわやかな気分になった。そんな絵が随所に描かれている野口医院は、静岡県のJR浜松駅からバスで15分ほどの位置にある芳川の地で、3代にわたって地域の医療を支えてきた町医者だ。2024年、野口智靖さんが医院を引き継いだ際に、移転と共にホスピタルアートの導入を決めた。小児科を受診する子どもたちがまた行きたいと思える病院を目指したためだった。

野口さんがWebでホスピタルアートの施工団体を検索すると、アーツプロジェクトが一番上に表示された。ほかにホスピタルアートを手がける企業や組織がほとんどないことや、詳細な制作実績が載った団体のウェブサイトが、依頼の決め手になった。

ほどなく、アーツプロジェクト代表の森合音さんと内装のコンセプトが話し合われた。楽器の製作で有名な浜松市にちなんだ郷土愛あふれる「動物の演奏会」というテーマに決定した。野口さんの頭の中に元々あったものという。

壁画の原画を描くクリエイターに選択肢が欲しいと要望し、森さんは野口さんの熱意に

応えて5人の作家による簡易的なコンペを行った。その結果、音符に動物が乗っているという発想や、演奏を楽しみ合っているラフ画の雰囲気野口さんが惹かれ、イラストレーターの馬場千愛さんが選出された。

3人で浜松市動物園に赴く

もともと、この後すぐ壁画制作に移ったわけではなく、3人で浜松市動物園に赴いたそう。名物のゴールデンライオンタマリンのエリオを見るという目的を掲げていたが、当日エリオはお休みというハプニングがあった。野口さんは、「私が好きなレッサーパンダや、子どもたちに人気な動物たちを満遍なく取り入れようと話し合いました」という。森さん、馬場さん、野口さんの活動拠点は高松・京都・浜松と離れているからこそ、こうした体験の共有は単なる観察以上の効果を壁画にもたらし、病院という場に溶け込む表現の創出につながったのではないだろうか。

和気あいあいとした中で原画が完成し、ついに5日間かけた壁画制作が行われる。「この短期間で大きな壁画を完成できたのは、アーツプロジェクトや土台を塗ってくれた職人さんたちのおかげです」と馬場さんは振り返る。その5日間のうち1日は、地域の子ど

もたちや病院のスタッフと取り組むワークショップを行った。

こうした共同制作は、医院全体の中で新たなつながりを育んだ。馬場さんは現場で動物の影などを描いたほか、背景や肌の色を塗る職人へ指示も行った。原画の作者ゆえ全体を見る必要がある中で、自分も手を動かす。多くの参加者がいる現場では、楽器の弦の数や動物の描写など、具体的な内容を巡っていろいろな確認をしながら、納得のできる表現をみんなで目指した。そうしたことは、いい思い出として参加者の心に刻まれる。キュートな中にリアリティのある壁画は、こうして出来上がったのである。

取材・文・撮影・レイアウト＝吉野日奈子
写真提供＝野口智靖

森合音（もり・あいね）：右上写真左
ホスピタルアートディレクター、特定非営利活動法人アーツプロジェクト理事長
馬場千愛（ばんば・ちあい）：写真右
ホスピタルアーティスト・デザイナー
野口智靖（のぐち・ともやす）：写真中央
野口医院 次期院長 小児科専門医